
ユカリ

シャー芯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ユカリ

【Zコード】

N3446K

【作者名】

シャー芯

【あらすじ】

前向きで、ポジティブで、人気者。

それが、私の座右の銘？

「笑顔がスゲエかわいい」

ありがとう、そう言いながら涙止まらない。
その笑顔は私じゃない。

卑屈で、寂しがりやで、素直になれない。
それが私なんだよ。

「やさしくて、明るくて、本当にいい子」
やめてよ、それは私じゃない。

ユカリだよ、全部。

みんなの好きな私はユカリの方なんだ。

11ぐらいの時だつた。

生まれて初めてヒトの遺体をみた。
心臓がパンクしそうになつて、
ううん、パンクした。

頭の中の白が「コナ」コナに砕けて、
いろんな思い出が心臓に突き刺さる - -
そんな感覚に襲われた。

あの時からだつたね、ユカリ。
わたしは殆ど灰色の水の中。
ぼんやりと外の景色を眺めるしかできない。

つい、最近。

3つの遺体をみた。

わたしは灰色の水の中からだから、よくわからなかつた。

でも、ユカリが泣いていたのは知つてゐる。水が震えていたから。

わたしはユカリに比べたら駄目だと思つ。でも、頑張るからね。

だから、ユカリは少し休んでて良いんだよ。わたしもユカリになる。

大丈夫だよ、ずっと見てたから。

ユカリがいつでも戻つてこれるよう頑張るよ。

正直ユカリのことあんまりよく思つてなかつた。月が空のてっぺんにのぼつた頃、

ユカリは眠つて、わたしは起きる。

やりたいこといっぱいあるのに、

身体はひとつだから、いつもクタクタで、

横になつて眠るだけ。

ユカリだけずるい、好きなこといっぱいやって。友達いっぱいっくつて……。

卑屈な私、なりたいけど成れないから。ひとつの命に生まれたもうひとつのはのち。

雨と風がやけに強い曇下がり。

リモコンの電源ぼちつて押して、なんでだろ？ すごい懐かしい音が聞こえてくる。

胸が高鳴つて、点いたテレビ画面がにじんで見える。「バトンタッチ」ポンつて、背中押してくれた。ユカリ。ごめんね、逃げてばっかりだった。

灰色の水の中、コカリがくれた気持ち、思い出、記憶。
見つけ出して抱きしめる。

さよなら、今までありがとうございました。

- - コカリ。

懐かしい、懐かしい、春の日差し……

今日このじる

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3446k/>

ユカリ

2011年1月25日23時44分発行